

■医療経営管理学科 2020年度開講科目 カリキュラムマップ

医療経営管理学科 ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

医療経営管理学科では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

(1) 医療専門職としての使命を全うできる資質・能力

医療専門職としての使命を全うできる態度・知識・技能が身に付いており、医療事務や救急救命士などの資格認定試験に合格できるレベルを有する。

(2) 職業人としての資質・能力

サービスを受ける側から提供する側への意識の切り換えができ、他者の喜びから自らの喜びや価値を見出すことができる。

(3) 生涯学習への意欲

時代の変化や社会の多様性に対して常に関心を持ち続け、生涯を通して主体的に学習し、自らを高めるための意欲と成長の道筋を示すことができる。

上記の(1)は学力の3要素の「知識・技能」、(2)、(3)は「思考力・判断力・表現力」および「主体性・多様性・協働性」の各要素を発展、向上させたものです。

科目コード	科目分類・科目名称 基：専門基礎科目 L：専門基幹L群 A・B・C：専門基幹科目A～C 関：関連科目	授業の概要	達成目標	(1) 医療専門職としての使命を全うできる資質・能力	(2) 職業人としての資質・能力	(3) 生涯学習への意欲
	基 医療概論	病院・クリニックや医療機器メーカーなど、医療に関わる多くの職場で役立つような、基本的な考え方を身につけます。普段なかなか知ることができない病院内部のしくみや、治療のながれ、治療費の決まり方、カルテはどんなふうにかかれるのかなどについて、理解を深めます。また、報道記事などを参考に、医療事故、医療の質の地域格差、医療保険制度の疲弊など、現代の医療で浮き彫りにされた様々な問題についてもアプローチしてゆきます。	①医療に関係する様々な文章を読んで、その内容を説明することができます。 ②医療に関する課題について、チームで話し合いを行って意見をまとめ、発表することができます。 ③日本の医療の問題点について、自らの考えを述べる可以做到。	◎	○	○
	基 人体構造・機能論	人体の基本的な構造およびその動きを系統的に学ぶ。前期は人体を構成する最小単位である細胞の構造と機能について理解し、細胞が集って組織、器官、器官系を形成してできる人体の基本構造を学ぶ。後期は、各器官系の構造と機能を学ぶとともに、人間の身体で繰り広げられている様々な生命活動のしくみを理解する。これらの知識は、診療記録に記載されている内容の中での基本的な人体の部位、診断名の理解に必須であり、さらに、疾病の機序や病態の理解、実際の治療手段の理解に役立つ。	①生物学の基礎的な知識を説明できる。 ②ヒトの基礎的な構造と機能について説明できる。	◎		
	基 臨床医学総論	臨床医学における基本的な原則について1つひとつから、ワーキンググループでディスカッションを行い、各グループにおける発表から理解を深める。	①臨床医学における診断・治療に至る重要な原則について、学習・理解して説明できる。	◎		
	基 医学・医療用語	医療経営管理を大学で学び、将来、医療関連の分野におけるコミュニケーションに対応するためには、医学用語の知識が必須です。本講義では、人体の構造・機能、疾患、症状・症候、診断名、検査・治療方法などに関する専門用語（英語・日本語）の基礎知識を修得し、診療記録などの医療情報を正しく理解することを目指します。また、単に専門用語の語彙を増やすだけでなく、その内容（病名であればその病態や原因や代表的な治療法など）を理解することにも努めて授業を展開することで、臨床医学各論の学習の基礎を築きます。	①医学に関連する専門用語（英語）の学習を通じて、医学専門用語（日本語）とその基礎知識の理解を深める。 ②上記の学習によって、臨床医学各論等を学ぶ上での基礎を築く。 ③資格取得のための自律的な学習習慣を確立する。	◎		
	基 保健医療情報学	医療情報システムの概要を理解し、医療情報技術や診療情報管理士の基礎知識を習得するとともに、情報処理論、情報ネットワーク論、データベース論など、他の情報処理関連との橋渡しを行う。	①医療機関や地域における、医療情報システムの役割を説明できる。 ②医療機関における情報管理者の役割を説明できる。 ③医療情報システムの構成を説明できる。	◎		
	基 医療経営概論	日本と世界の医療制度を知り、その問題点を考察することで、医療経営に対する医療制度の関わりを具体的に示していきたい。まず日本の医療保険制度、介護保険制度に関して、その特徴を解説し、それらと対比する形で世界各国の医療事情を紹介していく。さらに、経営を担う者として大切な、経営の基本的な考え方や経営側の視点に立った思考方法等も平易な例を交えて説明する。	①医療経営における物の見方、考え方の基礎を身に付け、その観点から自分の意見を述べられる。 ②日本と世界の医療制度について具体的な知識を習得し、他者に分かりやすく解説できる。 ③日本の医療の現状と問題点を自分の言葉で説明できる。	◎	◎	
	基 医療管理総論	医療政策や医療制度への理解を深めるとともに、その流れのなかで診療情報の重要性について学ぶ。	①わが国の医療について、医療資源のマネジメントの観点から理解すること。 ②これまで、現在、今後の医療について、課題を発見し、説明できるようになること。 ③医療を政策・制度レベル、事業体レベル、専門職レベルでみて、具体的な役割を理解すること。	◎	◎	
	基 医学一般	医療系スタッフと連携を図り、心身の不自由さを持つ方々への確かな支援を行うことができるように、疾病や障害に関する基本的知識を身につける。また、自分自身の健康を考える。	①日常よく見られる疾病、障害について説明できる。 ②リハビリテーション、国際生活機能分類の概要について説明できる。 ③健康の概念について説明できる。	◎		
	基 救急医学総論	我が国の救急医療体制を知り、病院前救急活動について理解する。	①救急救命士の意義を理解し、その業務について学ぶ。 ②各種救急救命活動を学び、救急救命士の役割について説明できるようになる。	◎		
	基 経営管理論	企業をはじめとする組織の経営管理活動および人材マネジメントに関する知識、技法、態度を修得する。	①企業の経営管理における「マネジメント手法」について説明ができる。 ②コミュニケーション・センターとしての役割を認識し、良好な組織運営について論じることができる。 ③マネジメント・リーダーとしての立場を理解し、課題解決に向けての協調と配慮ができる。	○	◎	
	基 簿記	情報化社会になり、より簡単に決算書が作成できるようになりましたが、判断するのは人間の力です。簿記はビジネス言語といわれるくらい必要不可欠な知識になっていますのでしっかり学習し実学として身に付けましょう。	①決算書の作成：日々の取引を記録し、決算処理を行い、決算書（財務諸表）を作成できる。 ②資格取得：資格取得にチャレンジすることができる。	○	◎	
	基 情報倫理	情報活用にあたっての適切な判断、また成文化されている条約や法令等、および不文律のマナーなど、情報の送受信、維持、管理に関わる基本的行動規範について概説します。	①IDやパスワードなどの情報管理を的確に行うことができるようになる。 ②インターネットを通じた情報発信の利点と危険性について説明できるようになる。 ③著作権について解説することができ、これを侵害せずに適切に「引用」したレポートが書けるようになる。	○	○	
	基 情報処理論Ⅰ	情報処理技術の概略とこれに関連する基礎知識の習得を目標とする。	①ハードウェアを中心としたコンピュータ関連の入門的な用語を説明できるようになる。 ②コンピュータ内部で扱われる情報表現法を理解し、説明でき、応用できるようになる。 ③ハードウェアの種類や動作原理を理解し、説明できるようになる。	○	○	

科目コード	科目分類・科目名称 基：専門基礎科目 L：専門基礎L群 A・B・C：専門基礎科目A～C 関：関連科目	授業の概要	達成目標	(1) 医療専門職としての 使命を全うできる 資質・能力	(2) 職業人としての 資質・能力	(3) 生涯学習への 意欲
基	情報処理論Ⅱ	ソフトウェア、データベースシステム、ネットワークシステムの入門的な説明をし、コンピュータシステム全般の基礎知識習得を補完する。この授業では「コンピュータの世界」を把握するための基礎知識を中心に学習を展開する。	①コンピュータシステムの利用形態の種類と特徴を説明できるようになる。 ②オペレーティングシステムやデータベースの種類・機能・役割を理解し、説明できるようになる。 ③通信プロトコルを初めとした基本的なネットワークの概念や用語を説明できるようになる。 ④コンピュータシステムの信頼性の概念を説明できるようになる。	○	○	
基	情報処理基礎実習Ⅰ	ワープロソフトを使用した文書作成能力を身につけ、技能を証明するためのMOS資格を取得する。	①ワープロソフトを使用した文書作成能力を身につける ②技能を証明するためのMOS資格を取得する。	○	○	
基	情報処理基礎実習Ⅱ	表計算ソフトを使用した数値や文字データに関する情報処理を身につけ、技能を証明するためのMOS資格を取得する。	①表計算ソフトを使用した数値や文字データに関する情報処理を身につける。 ②上記技能を証明するためのMOS資格を取得する。	○	○	
基	身体活動と健康	健康増進関連の施策や健康づくりのための運動を通して、生活習慣病予防、介護予防の理論と実際に興味・関心を持ってもらうことを目的としています。	①健康増進のための運動効果と運動不足が健康に与える影響を説明できる。 ②身体活動指針2013（アクティブガイド2013）を理解し、活用できる。 ③健康づくり運動とはどんな運動か理解し、説明できる。 ④運動強度と肺換気量、呼吸数の関係を理解し、呼吸の状態の観察により運動強度を概ね見極められることを理解、応用できる。 ⑤有酸素性作業能力、筋力、平衡性、柔軟性の向上が日常生活にどのような影響を与えるのかを理解し、関連づけることができる。 ⑥運動実践に関わる社会・心理・環境的要因や、得られる心理的効果の内容とその効果を高める要因について、理解し論じることができる。	○		○
L	リエゾンゼミⅡ	リエゾンゼミで学んだ学習スキルと問題発見・解決学習を踏まえ、担当教員の専門領域と学生の興味・関心に基づき、専門を深めるために基礎となる知識の習得と深化を進める。	①ゼミ担当教員毎に定めるテーマについてグループでさまざまな観点から探究し、論理的に考え、課題を発見し、討議し、解決していく統合的な学習経験を体験し、創造的思考をすることができるようになる。	○	○	◎
L	リエゾンゼミⅢ	担当教員の専門領域と学生の興味・関心に基づき、専門知識の習得と深化を進める。	①課題として扱う事項に対して論理的に疑問を持ち、自ら調査・研究することができる。 ②作成した資料をもとに、わかりやすい報告ができる。	○	○	◎
L	リエゾンゼミⅣ	担当教員の専門領域と学生の興味・関心に基づき、専門知識の習得と深化を進めるとともに、独自の視点をもって探究活動に取り組む。	①独自の視点かつ検証可能な形式の研究課題を組み立てることができる。 ②学修成果に基づいた研究課題に取り組み、発展させることができる。	○	○	◎
L	卒業研究	卒業研究は、在学中における学習成果をもとに、各自が研究テーマを設定し、担当教員の指導助言を受けながら、論文を作成するものです。必修科目ではありませんが、学生時代に学問的な創造性を発揮し得る絶好の機会です。自分がはたして大学で何を学び身につけることができたのかを確認することもできます。時間的な余裕のある学生は履修することをお勧めします。	①研究倫理を遵守すること。 ②論文としての構成・体裁が整っていること。 ③先行研究のレビューを充分に行っていること。 ④適切なデータ、資料に裏付けられていること。 ⑤学修成果に基づいた相応の独創性が認められること。 ⑥研究の意義・成果の明示がされていること。	○	○	◎
A	臨床医学各論Ⅰ	感染症および寄生虫症分野において頻度の高い疾患の特徴・症状・検査・治療について、概説できるようになることを目的とする	①臨床医学における感染症および寄生虫症分野における代表的な疾患の形態と特徴的な症候を理解し、各疾患における診断および治療を説明できる。	◎		
A	臨床医学各論Ⅱ	新生物とは遺伝子障害により、細胞の生体内制御が不可能になり無秩序な細胞増殖が行われるために腫瘍を形成するものである。このうち日本人の年間死亡者数、約130万人のうちの第一位（約30%）を占める悪性新生物（主として癌）についての、発症、症状、診断、治療、予後などを中心に解説を行う。	①新生物とは何か、その種類の概要を理解し、説明できる。 ②各新生物の診断と治療法、予防法、予後などを理解し、説明できる。	◎		
A	臨床医学各論Ⅲ	血液・内分泌・代謝分野において頻度の高い疾患の特徴・症状・検査・治療について、概説できるようになることを目的とする。	①臨床医学における血液・内分泌・代謝分野における代表的な疾患の形態と特徴的な症候を理解し、各疾患における診断および治療を説明できる。	◎		
A	臨床医学各論Ⅳ	神経系と感覚系は、私たちが物を見たり聞いたり、手足を動かしたりするのに必要な体の仕組みです。まず神経系・感覚系とは体のどの部分を指すのか、どのような働きをしているのかについて、人体構造・機能論で学んだ内容をおさらいします。 その後、様々な原因で仕組みが障害されると何が起こるのか、神経内科、脳神経外科、眼科、耳鼻科、精神科などの診療科で扱っている代表的な疾患（ICD-10の第5章から第8章に含まれます）について、その特徴と症状・所見、診断法、処置・治療法、患者さんへの接し方などを解説してゆきます。	①神経内科、脳神経外科、眼科、耳鼻科、精神科で扱う疾患のうち、それぞれ症例の多い3～5種類程度について、特徴と症状・所見、患者さんへの接し方、治療の方針などを説明できるようになる。	◎		
A	臨床医学各論Ⅴ	呼吸器・循環器系の様々な疾病について、その原因、症状・所見、検査方法、及び治療方法について学びます。また、各種疾患の予防についても理解を深めます。	①循環器系疾患について、基本的な生理と病理、症状、検査、診断、治療法について理解し、説明できる。 ②呼吸器系疾患について、基本的な生理と病理、症状、検査、診断、治療法について理解し、説明できる。	◎		
A	臨床医学各論Ⅵ	消化器（口腔、食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、直腸、肛門、肝臓、胆嚢、膵臓）、泌尿器（腎臓、尿管、膀胱、尿道）及び生殖器（精巣、前立腺、子宮、卵巣、卵管等）の疾患・障害について、病因・病態、診断、治療、予防等を学びます。	①消化器系、泌尿・生殖器系疾患の病因・病態、診断、治療、予防について理解し、説明できる。	◎		
A	臨床医学各論Ⅶ	妊娠の成立、妊娠による母体の変化、胎児の発育、分娩、産褥までの理解。特に、正常妊娠と異常妊娠、正常分娩と異常分娩について学ぶ。	①診療情報管理に必要な女性生殖器の疾患について理解し、説明できる。 ②妊娠の成立、妊娠による母体の変化、胎児の発育、分娩、産褥について理解し、説明できる。	◎		
A	臨床医学各論Ⅷ	前半は診療情報管理に必要な皮膚領域の疾患と外傷を理解する。皮膚医学総論、皮膚および皮下組織の疾患と外傷・創傷治療を学ぶ。後半は診療情報管理に必要な運動器の疾患と外傷を理解する。整形外科総論、骨関節系の障害の原因となる外傷、疾患およびリハビリテーションを学ぶ。	①皮膚疾患について、基本的な病態生理学、症候学、診断学、治療法について理解し、説明できる。 ②筋骨格系疾患について、基本的な病態生理学、症候学、診断学、治療法について理解し、説明できる。	◎		
A	医療統計Ⅰ	医療や経営の意思決定を理解したうえで、統計分析を活用する能力を養成する。	①医療や経営の意思決定が理解できる。 ②統計的分析に関する基本的な知識と技術を理解し活用できる。	◎		
A	医療統計Ⅱ	医療や経営の意思決定を理解したうえで、統計分析を活用する能力を養成する。	①医療や経営の意思決定が理解できる。 ②統計的分析に関する基本的な知識と技術を理解し活用できる。 ③Excelを用いた簡単なグラフ表現ができる。	◎		

科目コード	科目分類・科目名称 基：専門基礎科目 L：専門基礎L群 A・B・C：専門基礎科目A～C 関：関連科目	授業の概要	達成目標	(1) 医療専門職としての使命を全うできる資質・能力	(2) 職業人としての資質・能力	(3) 生涯学習への意欲
	A 国際疾病分類Ⅰ	国際疾病分類（ICD）についての理解を深め、歴史と現在の状況を概念するとともに、我が国における利用の状況を理解する。	①わが国の人口動態統計のしくみと意義を理解する。 ②人口動態統計に用いられる国際疾病分類（ICD）についての理解を深め、その歴史と現在の状況を理解する。 ③国際疾病分類群（ファミリー）に属するその他の分類体系についての理解を深め、健康情報に関する幅広いコード体系についての意義と問題点を理解する。 ④わが国に導入されているDPC/PDPS制度におけるICDの利用について理解する。	◎		
	A 国際統計分類Ⅱ	診療録の記載内容を分析し、国際疾病統計の基本となるICD-10での病名のコーディング方法を習得する。そして、ICD分類体系を理解し、病名と分類体系が紐づけられることを目指す。	①人体構造（解剖生理）、医学各論等で学習した知識を生かし、疾病の分類方法に基づく正確なコーディング作業ができる。 ②国際疾病分類論の学習と関連付けながら、疾病分類法の理解を深め、その特徴を踏まえてICD-10の各章に沿った分類技術と使用方法を習得し、高い実践力を発揮できる。 ③退院時要約や死亡診断書等を用いて診療記録の記載内容を把握し、診断名、医療行為及び原死因のコーディングとこれを用いた情報活用の技術を習得し、説明できる。	◎		
	A 病理学	心身機能の低下が生活活動に及ぼす影響について学び、人の生活を支援する方法について修得する。	①ヒトの疾病のメカニズムとして重要な循環不全や炎症、腫瘍における病理学的基礎知識について、自分の言葉で説明できる。 ②福祉職として知っておくべき代表的な疾病の関連症状について具体的に説明できる。 ③再生医療やがん遺伝子治療の基本について、自分の言葉で説明できる。	◎		
	A 精神医学	こころの病や障害の成り立ち、あらわれ方、なおし方、ささえ方などに関する基本的な知識を、なるべく具体的にわかりやすく伝えることを心掛けて講義します。そして、精神医学に自分なりの興味を持っていただき、かつ、精神医学と精神保健のひとつの全体像として理解ができるようになることを目標とします。	①精神医学を精神保健や社会福祉に応用するための基本的な知識と考え方を学ぶ。	◎		
	A 薬理学	病気の治療には数多くの薬が用いられ、現在の医療の中で薬物療法は治療の重要な柱の一つとなっており、薬物療法についても正しく理解する必要があるため、薬に関する正しい基礎知識を説明します。	①医療従事者に必要な薬の基礎知識・医療用語を説明できる。	◎		
	A 小児疾病治療論	小児の特性・発達及び、特有の事故・外傷の総論を概説する。それと共に、小児期の代表的な疾患の症状・診断・治療について解説する。	①小児の特性・発達の概要、特有の事故・外傷の概要を述べることができる。 ②小児期の代表的な疾患の症状・診断・治療についての基本的な知識を述べることができる。（救急疾患を中心に）	◎		
	A 放射線医学	救急救命の現場で、疾患の診断を行う上での放射線医学、殊に放射線診断学への理解を深め、臨床現場で行われる救急医療におけるその役割・意義を身に着ける。放射線の種類・特徴を学び、放射線を利用した医療機器の概要を知り、脳卒中・心筋梗塞・骨折など救急医療で問題となる疾患についても放射線医学の側面から学習する。	①救急救命の医療行為の中で、放射線医学がどの時点でどのように役立つのかを理解する。	◎		
	A e-ヘルスケア論	予防医学、健康管理、患者支援等の分野に焦点を当て、それらにおける情報処理、情報通信、ロボット、ビッグデータ活用、AIなどのIT関連技術の活用事例や課題、将来展望等について考察する。	①ヘルスケアプログラムの種類と現状について知見を習得し、必要に応じて実践できる。 ②ヘルスケアにおけるIT技術の利用について具体的な事例を挙げられる。 ③e-ヘルスケアの将来展望と問題点を自分の言葉で説明できる。	○	○	○
	A 医薬品学	医薬品の科学として薬理学・薬剤学の基礎を学びながら、医薬品の相互作用・副作用・アレルギーなどを理解させ、小児と医薬品、高齢者と医薬品、妊婦・授乳婦と医薬品などについて体系的に学習する。	①医薬品学の理解を深め、登録販売者として重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。 ②漢方処方製剤などの生薬製剤について理解し、説明できる。	○		
	A 成人保健	成人の病気と健康における課題や、その対策について学修することを通して、将来、社会人として家庭や職場、地域の中で適切な保健行動がとれる人材や、健康運動実践指導者として活躍する人材の養成を目指す。	①健康と健康増進の概念、歴史、生活習慣変容の重要性を理解し、概説できる。 ②日本の健康づくり施策の現状と、その歴史の変遷について理解し、概説できる。 ③生活習慣病等の概念と運動による予防効果について理解し、概説できる。 ④日本の高齢社会の現状、介護予防の内容と運動の重要性について理解し、概説できる。 ⑤健診項目の内容と基準値、運動を始める前のメディカルチェックの重要性について理解し、概説できる。 ⑥行動科学に基づく健康増進の方法を理解し、その具体例を挙げることができる。 ⑦集団の健康増進対策について、その要点を挙げ、独自に対策を立てることができる。 ⑧TBLによるアクティブラーニングを通して健康課題を自分のこととして捉え、健康増進を実践できる	○	○	○
	A 運動障害と予防・救急処置	スポーツの現場で起こりうるスポーツ外傷・障害の原因や症状、内科的な急性・慢性障害の概要について理解する。さらに、事故や傷害発生時における応急・救急処置の技術を身につけるとともに、予防法について実技を交えて学ぶ。	1) 一般的なスポーツ障害・外傷の診断名を列挙できる。 2) スポーツ障害・外傷がよく発生する部位を骨格模型を用いて示すことができる。 3) スポーツ障害の自覚症状と他覚兆候及びその予防法について理解する。 4) 運動時に問題となる内科的な急性・慢性障害の概要とその予防方法について理解する。 5) 運動を始める前のメディカルチェックの重要性について理解する。 6) 運動中止が必要な症状や徴候を列挙し、的確に運動中止の判断ができる。 7) スポーツ時に遭遇する外科的応急・救急処置、テーピング技法をデモンストレーションできる。	○		

科目コード	科目分類・科目名称 基：専門基礎科目 L：専門基礎L群 A・B・C：専門基礎科目A～C 関：関連科目	授業の概要	達成目標	(1) 医療専門職としての 使命を全うできる 資質・能力	(2) 職業人としての 資質・能力	(3) 生涯学習への 意欲
	A 健康運動指導論	運動指導者に必要な知識として、生活習慣病予防における身体活動・運動の必要性と安全にかつ効果的な運動プログラムについて理解する。	①トレーニングの原則と効果について理解している。 ②健康づくりのための運動プログラム作成上のポイントについて、運動強度、時間、頻度の観点から説明できる。 ③ウォームアップとクールダウンの生理的、心理的役割と重要性、運動プログラムへの取り入れ方を理解する。 ④機器を用いた運動の指導上の安全性と効果について理解する。 ⑤心拍数を用いた運動強度の設定および活用方法を理解している ⑥体力諸要素を向上させるための効果的かつ安全な運動強度、頻度、継続時間について理解する。 ⑦トレーニング効果の経時変化を説明できる。 ⑧身体活動・運動のエネルギー源およびエネルギー消費量について理解する。 ⑨適切な減量計画の立案について理解する。 ⑩運動を採択、継続、および停止を予防するために適用されている行動変容理論・モデルおよび技法を理解する。 ⑪募集に際して要因を明確にし、多くの参加者を得るために行わなければならない留意点を理解する。 ⑫指導と受講のミスマッチの存在を理解し、その解決法について考える。 ⑬個別指導における動機づけ、カウンセリングの方法を理解する。	○	○	
	A 健康運動の理論と実践Ⅰ（ウォーキング、ジョギング）	健康維持・増進効果をもたらすようなウォーキングとジョギングの実践法および指導法を学ぶ。	①ウォーキング、ジョギングの実践法および指導法を実演することができる。	○	○	
	A 健康運動の理論と実践Ⅱ（ストレッチング、レジスタンス運動）	健康維持・増進効果をもたらすようなストレッチングとレジスタンス運動の実践法および指導法を学ぶ。	①ストレッチングとレジスタンス運動の実践法および指導法を実演することができる。	○	○	
	A 健康運動の理論と実践Ⅲ（エアロビックエクササイズ、体操）	健康維持・増進効果をもたらすようなエアロビックエクササイズと体操の実践法および指導法を学ぶ。	①エアロビックエクササイズ、体操の実践法および指導法を実演することができる。	○	○	
	A 健康運動の理論と実践Ⅳ（アクアエクササイズ）	水の物理的特性を理解し、水環境でのさまざまなエクササイズを体験する。また、健康の維持・増進を目的とした水泳・水中運動を受講するとともに、プログラム構成を理解する。各プログラムの特色、指導法、実施時の注意点などを学び、水中及びプールデッキ上での指導方法を習得する。	①アクアエクササイズの実践法および指導法を実演することができる。	○	○	
	B 医療管理各論Ⅰ	医療管理の概念や方法論を学ぶ	①医療システムの全体像を各構成要素と合わせて理解できる。 ②医療機関のマネジメントに関する知識を理解し応用できる。 ③診療情報管理士の資格取得のための医療管理知識を習得する。	◎		
	B 医療管理各論Ⅱ	医療事務職として必要な、DPC、介護保険制度、医療安全、医療の質評価、診療報酬請求データの活用に関する理解を深める。	①DPC/PDPSの基本と基礎調査を理解する。 ②介護保険制度の概要と必要とされてきた背景と今後の展開を理解する。 ③医療安全の重要性と医療の質評価のあり方について理解する。	◎		
	B 診療情報管理論Ⅰ	日本と諸外国の診療情報管理の歴史的背景や資格試験制度だけでなく、診療情報管理士の実務に必要な法規や部門の在り方、電子化への対応について学ぶ。	①診療情報管理部門の日常業務を理解することができる。 ②診療記録の監査について、その内容と重要性について理解することができる。 ③診療情報の活用および管理について理解することができる。 ④診療録の作成方法（代行入力）について理解することができる。	◎		
	B 診療情報管理論Ⅱ	診療情報管理の業務内容、実務について論ずる。具体的には、診療情報の「収集」「管理」「提供/活用」を行う診療情報管理士の日常業務について学ぶ。	①診療情報管理部門の日常業務を理解することができる。 ②診療記録の監査について、その内容と重要性について理解することができる。 ③診療情報の活用および管理について理解することができる。 ④診療録の作成方法(代行入力)について理解することができる。	◎		
	B 会計学	簿記の授業で作成した「財務諸表」について、経営的立場から分析して判断できるよう、具体的な企業分析を実践問題で学びます。	①貸借対照表と損益計算書を診て、現状と今後の課題が判断できる。 ②損益分岐点分析から利益計画を設定できる。 ③キャッシュフロー計算書の作成と分析ができる。		◎	
	B 労働法Ⅰ（労働組合法を含む）	労働法は、アルバイト時の雇用問題にも、もちろん適用される。学生時代のアルバイトでの雇用問題、大学卒業後の雇用の場での問題を考える	①雇用問題、雇用の場での問題を考えることができるようになる。		◎	
	B 労働法Ⅱ（労働組合法を含む）	労働法は、アルバイト時の雇用問題にも、もちろん適用される。学生時代のアルバイトでの雇用問題、大学卒業後の雇用の場での問題を考える。	①雇用問題、雇用の場での問題を考えることができるようになる。		◎	
	B 社会保険論	保険の仕組みを理解した上で、社会保険の理論的な考察や具体的な制度の仕組みと現状、そしてそれらが抱えている諸問題について考察する。	①身近な生活上の危険を理解することができる。 ②生活における社会保険の重要性を認識することができる。 ③社会保険の内容を理解して、自らの生活に活用することができる。		◎	
	B コミュニケーション基礎演習	社会人として求められる対人対応、接遇をの基本をプレゼンテーション、グループワーク等の実技を通して身に付ける。	①社会人としての心得、求められる対人対応力、接遇力とは何かを学び、理論として説明できる。 ②上記理論を理解し、接遇が実践できる。	○	◎	○
	B 医療従事者としての心得、求められる対人対応力、接遇力を現場の事例から学ぶ。プレゼンテーション、グループワーク等の実技を通して接遇の基本を身に付ける。	①医療従事者としての心得、求められる対人対応力、接遇力とは何かを学び、理論として説明できる。 ②上記理論を理解し、医療現場(実習)で接遇が実践できる。	◎	◎	○	
	B 医療機関実習	現場経験を積んで職業理解を深めること、専門の知識と技能、医療人としての人間力を養う。	①医療機関において、職業人として必要なマナー、常識的行動を修得する。 ②自らが設定した実習目標に向けて努力し、実践できる。	◎	◎	○
	B ヘルスマネジメント論	個人、職場、学校、地域、国といった各レベルにおける予防・健康づくり推進をめぐる最新の取り組みに触れて関心を深め、健康リテラシー（健康的な生活をおくるのに必要な知識とスキル）の向上を図ります。	①予防・健康づくり推進事業が行われている社会的背景を説明できる。 ②身近な地域で展開されている予防・健康づくり推進事業を例示できる。 ③予防・健康づくりに関する各種イベント・研修会等に参加する。 ④低関心層に対する、予防・健康づくり推進事業の具体的方策を提案することができる。	○	○	○
	B シミュレーション実習Ⅰ	救急救命士としての基本的救急蘇生法の基本を修得し、基礎的な知識および技術を身につける。救急医療の現場に必要なチーム医療活動の意義を理解する。	①救急救命士として、傷病者の観察・評価方法を理解する。 ②救急処置に関する基礎的な実践に対応できるようにする。	◎	○	
	B シミュレーション実習Ⅱ	医療機関における実習に向けて、各救急救命処置について、その目的を理解し、手技についての基本を修得し、救急救命士としての基本的な手技を学ぶ	①病院前救護に必要な各救急救命処置の理論を理解する。 ②病院前救護の各種技法についての基本を修得する。	◎	○	
	B シミュレーション実習Ⅲ	救急医療の病院前救護活動を実践する救急救命士として、医療人としての倫理観を養う。さらに、これまでシミュレーション実習Ⅰ・Ⅱで行ってきた救急救命の技能を向上させる。さらには、救急医療現場での活動についての安全管理に関し、的確に実践できる基礎的技法を修得する。また、救急医療におけるチーム医療活動として、必要な知識と技能を身につける。	①病院実習に必要な救急救命士に関する知識、技能、態度を修得する。	◎	○	

科目コード	科目分類・科目名称 基：専門基礎科目 L：専門基礎L群 A・B・C：専門基礎科目A～C 関：関連科目	授業の概要	達成目標	(1) 医療専門職としての 使命を全うできる 資質・能力	(2) 職業人としての 資質・能力	(3) 生涯学習への 意欲
B	シミュレーション実習Ⅳ	救急医療の病院前救護活動を実践する救急救命士として、医療人としての倫理観を養う。さらに、これまでシミュレーション実習Ⅰ・Ⅱで行ってきた救急救命の技能を向上させる。さらには、救急医療現場での活動についての安全管理に関して、的確に実践できる基礎的技法を修得する。また、救急医療におけるチーム医療活動として、必要な知識と技能を身につける。	①病院実習に必要な各種救急救命処置の理論を理解する。 ②病院実習で行う各種救急救命処置の技法を修得する。	○	○	
B	病院実習Ⅰ	救急救命士課程の講義・実習で習得してきた知識・技術の応用と、特定行為に関わる技術の習得を主体とする。さらに医療現場の見学と医療行為の介助を通じて、診療補助に対する理解を深める	①医療現場を体験し、自己の医療人としての態度と姿勢をさらに高めることができる。 ②救急患者搬入時の連絡、準備、処置、検査など一連の流れを知り、救急救命士の役割を説明できる。 ③自己の傷病者に対する観察能力・症状判断能力について適切に遂行、評価できる。 ④自己の傷病者に対する救護処置について適切に遂行、評価できる。	○	○	
B	病院実習Ⅱ	救急救命士課程の講義・実習で習得してきた知識・技術の応用と、特定行為に関わる技術の習得、そして救急救命士の認定試験に合格できる知識・技能まで高めることを目的としています。	①救急救命士課程の講義・実習で習得した知識・技術を実際を想定した場面で実践・応用できること ②特定行為に関わる技術を実際を想定した場面で実践・応用できること ③救急救命士の認定試験に合格できる知識・技能まで高めること	○	○	
B	救急車搭乗実習	消防署の指導のもと、救急車における傷病者への実践できる基礎的技法を修得する。	①救急車における救急医療における救急処置の理論を理解し、各種技法を修得する。	○	○	
B	健康運動指導実習	介護・老人保健福祉施設、アスレチック・フィットネスクラブ、医療機関、保健センター等の介護予防・健康増進施設、あるいは地域の運動サークル等の実習フィールドにおいて、幅広い対象者と目的、会場に応じて運動実践の企画・指導ができる質の高い人材を育成することを目的とします。	①幅広い対象者に運動指導を経験することで、社会人および運動指導者として必要な対象者への適切な態度および礼儀を理解し、行動することができる。 ②基本的姿勢および言語的非言語的コミュニケーションをとることができる。 ③個々の実習から学んだことを振り返り、施設担当者や担当教員らとディスカッションすることができる。 ④実習の成果をプレゼンテーションすることができる。	○	○	
C	ICT入門実習	社会人として企業で働くために基礎となるIT知識を学び、その知識の修得の証明としてITパスポート試験に合格することを目標とする。	①情報の活用技術試験であるITパスポート試験の合格を目指し、内容を説明できる。		○	
C	ICT活用実習	社会人として企業で働くために必要なIT知識と、企業の目的などの基礎を学び、その知識の修得の証明としてITパスポート試験に合格することを目標とする。	①情報の活用技術試験であるITパスポート試験の合格を目指し、内容を説明できる。		○	
C	実用ICT講座Ⅰ	大学からの貸与PCを用い、プレインストールされている汎用ソフトウェアを使って、基本作業ができるようになることを目的とします。	①貸与されたPC（年度ごとに型が異なる場合があります）を適切に取り扱うことができる。 ②ウイルス感染や故障等の際に、適切に対処することができる。 ③USBメモリ等を用い、自らが作成したファイルやダウンロードしたデータを適切に管理することができる。		○	
C	情報処理応用実習Ⅰ	ビジネスに必要なPC上でアプリケーションソフトを使いこなすリテラシーを身に付けることを目的とします。	①MOS試験に合格する。		○	
C	情報処理応用実習Ⅱ	Windowsのファイル操作と、Excelによる関数を使ったデータ処理、データベース機能によるデータの抽出、の集計、データの分析を中心に、またAccessについては、初歩的なデータベースの作成技術と、データ抽出クエリの作成について学びます。	①表計算ソフトによるデータ抽出ができる。 ②表計算ソフトによるデータ集計ができる。 ③表計算ソフトによるデータ分析ができる。 ④表計算ソフトによるデータの加工ができる。 ⑤データベースソフトの基本が理解できる。		○	
C	ソーシャルメディア論	ソーシャルメディアの特徴や問題点について事例とともに解説していく。	①インターネットのメディアとしての利便性とリスクを説明できる。 ②ソーシャルメディアの特徴について説明できる。 ③情報リテラシーを常に意識しながらソーシャルメディアを利用できる。		○	
C	インフォメーションデザイン論	「分かりやすく情報を表現する」ということをテーマに、「人間中心のデザイン」というコンセプトを理解する。	①ユーザー中心デザインの特徴について説明できる。 ②Webの情報提供と、情報利用者の特徴の関係について説明できる。 ③プレゼンテーションの情報提供と、聴衆の特徴の関係について説明できる。 ④情報デザインの必要性を、自分なりの具体例を用いながら説明できる。 ⑤情報利用者の特徴と情報デザインの関係を、自分なりの具体例を用いながら説明できる。 ⑥さまざまな情報提供の場面で、常にユーザーの特徴を考慮した情報提供に気を配るといふ応用力を身につける。		○	
関	身体運動科学	運動指導者に必要な知識として、一過性ならびに継続的な身体活動の実践に伴う身体諸器官の反応性や適応性を理解する	①身体運動に関与する主な骨と筋と関節の名称を覚える。 ②単関節・多関節運動を理解する。 ③運動の発現する仕組みを理解する。 ④随意運動と不随意運動の違いを理解する。 ⑤筋繊維の収縮特性と代謝特性、筋収縮におけるエネルギー供給機構を理解する。 ⑥筋の収縮様式と筋力との関係、およびトレーニングによる筋機能への影響を理解する。 ⑦運動時の呼吸循環系の役割や、最大酸素摂取量、無酸素性作業閾値を理解する。 ⑧運動に対する体液の果たす役割を理解する。 ⑨体力、基本的動作の発達および加齢の影響について理解する。 ⑩体力に影響を及ぼす要因を、先天的要因と後天的要因から理解する。		○	
関	身体運動科学演習	健康運動実践指導者に必要な身体運動能力（体力）評価の目的および意義、身体運動の力学的基礎を理解し、各種スポーツにおける動作を見る眼と運動能力の測定および評価を学ぶ。	①体力の概念と構成要素について理解する。 ②体力測定の目的や対象について理解する。 ③有酸素性および無酸素性体力の指標と測定法を理解する。 ④身体組成の測定原理および測定方法を理解し、それらを実施できる。 ⑤新体力テストの各項目と体力要素との関連を理解し、その測定と評価ができる。 ⑥体力測定結果の分析・評価・活用法を理解する。 ⑦基本的動作の力学的特徴を理解する。 ⑧筋と腱の弾性エネルギーを理解する。 ⑨着地衝撃とその緩衝法を理解する。		○	
関	救急処置法	一次救命処置には心肺蘇生、AED使用、および気道異物除去が含まれる。また救命蘇生法では種々の応急手当について講義する。本講義は救命蘇生の手技のみならず、解剖学、生理学の医学的基礎理論に基づいて行う。	①救命蘇生の手技・手順を理論的に熟知する。 ②救命蘇生の手技・手順を正確に実行出来る。	○	○	

科目コード	科目分類・科目名称 基：専門基礎科目 L：専門基礎群 A・B・C：専門基礎科目A～C 関：関連科目	授業の概要	達成目標	(1) 医療専門職としての使命を全うできる資質・能力	(2) 職業人としての資質・能力	(3) 生涯学習への意欲
	関 ドクターズクラーク実践	医師法・医療法・薬事法・健康保険法等の関連法規の概要、個人情報保護に関する事項等の基礎知識を習得し、診療録等の記載・管理・代行入力業務の技能を身につける。	①医師事務作業補助に関する知識、技法、態度を修得する。	○		
	関 国際協力論	国際社会を理解し、先進国による途上国援助の課題を考え、グローバルな共生社会のあり方に目を向ける。	①国際協力の歴史的背景を理解し、概要を説明できるようになる。 ②我が国を含めた先進国によるODAの現状を把握する。 ③NGOによる国際協力の活動事例を通じ、支援活動を考えられるようになる。 ④国際協力の必要性やあり方などについて、問題意識が持てるようになる。		◎	○
	関 心理学概論	専門的な心理学の入り口として、心理学の代表的な下位領域とそこで用いられる基本的概念を理解することで、心理実践力のうちの人間理解力、問題解決力、自己コントロール力を身につける。	①心理学の成り立ちのついて概観できる。 ②人の心の基本的な仕組み及び働きについて概説できる。 ③心理学で用いられる基礎的用語（基本的概念）を理解した上で、その言葉の日常的用法との違いを説明できる。 ④講義にて紹介された心理学概念・理論に対して、具体的な行動例を指摘することができる。 ⑤心理学を構成する下位領域から、異なる領域の概念を用いて1つの行動を説明することができる。	○	◎	○
	関 健康・医療心理学	心理学の新しい分野である健康・医療心理学の知見とその適用・応用について概説していく	①健康・医療心理学の基本概念を習得し、他の心理学領域との差異を説明できる。 ②ストレスと心身の疾病の関係について概説できる。 ③健康を促進する要因を複数指摘することができる。 ④さまざまな保健活動において必要な支援について説明できる。	○	○	○
	関 社会保障論	社会保障を自らの生活基盤として理解して、主体的に問題を発見するとともに、その解決策を模索する。	①利用者にかかわる場面において、社会保障の知識を応用できる。 ②自らの生活に、社会保障の知識を活かすことができる。 ③社会保障改革に対する自分の物差しをもつことができる。	○	○	○
	関 社会福祉原論(職業訓練を含む)	社会福祉全般の基礎的学習と、社会福祉実践の基盤である社会福祉観の変遷について考察します。社会福祉学を人間と社会を対象とする研究分野と指定し、社会福祉実践における用語や術語を丁寧に吟味しながら、多角的に考察します	①社会福祉に係わる全般的知識を習得する。 ②自らの社会福祉観の基本的枠組みを獲得する。	○	○	
	関 児童・家庭福祉論	児童および家庭に関する法律や制度、施策の実態を理解する。	①児童福祉や権利保障の歴史をふまえ、我が国の児童家庭政策の全体像を理解しその内容を説明することができる。 ②多岐にわたる児童に関する法律や制度を把握し、保育や社会福祉援助技術につながる知識を身につけることができるようになる。	○	○	○
	関 高齢者福祉論	高齢期の特徴、超高齢社会の諸課題について理解した上で、高齢者に対する諸制度と支援の方法について体系的に理解する。	①高齢期の特徴を身体的・精神的・社会的に理解し説明できる。 ②高齢者に対する諸制度について理解し説明できる。 ③介護保険制度とサービスの体系について理解し説明できる。 ④高齢者を支援する組織と専門職の役割を理解し説明できる。 ⑤高齢者支援の方法について理解し説明できる。 ⑥高齢者福祉に関わる諸問題に関心を持ち、今後の課題について考えることができる。	○	○	○
	関 障害者福祉論	障害のある人を取り巻く現状を理解するとともに関係する法律や制度について理解し考察する力を身につけます。	①障害に関する定義等及び障害者福祉に関する法や制度の概要を理解し、それらについてわかりやすく説明できる。 ②障害者福祉に関する支援のしくみについてわかりやすく説明できる。 ③障害者福祉をめぐる現在の課題について論じることができる力を身につける。	○	○	○
	関 地域福祉論	地域社会において地域福祉の具体的展開が必要とされている中で、社会福祉専門職としての基本的な視点をもって地域住民の主体的な活動の支援に関し理解を深める。	①地域福祉の必要性を踏まえ、理念および基本的な理論を説明することができる。 ②地域福祉に関する課題を把握し、解決に向けた方向性を見出すことができる。 ③地域福祉の展開手法や具体的な推進方法に関して説明することができる。	○	○	○
	関 福祉経営論	福祉サービスの特質を理解した上で、福祉サービスを提供する法人形態を営利、非営利を含め、多面的に理解する。	①福祉サービス経営者としての法人の役割を説明できる。 ②職員を支援しリードしていく管理者の役割を理解し、説明できる。 ③福祉サービスの質を保証し、利用者の選択と意見を取り入れていく仕組みや第三者評価を説明できる。 ④職員の待遇、人材の確保、人材の育成を理解し、説明できる。 ⑤会計財務管理の基本を理解し、説明できる。 ⑥経営学の基礎知識を理解し説明できる。		◎	
	関 生化学・栄養代謝学	エネルギー代謝による組織の維持・増殖、遺伝情報に基づくタンパク質合成等の化学的連携反応など、生体内で起こる諸過程や諸反応を説明します。	①エネルギー代謝による組織の維持・増殖、遺伝情報に基づくたんぱく質合成などの化学反応など、生体内で起こる諸過程や諸反応を説明できる。 ②栄養素の消化・吸収・代謝について説明できる。 ③代謝性疾患等の病態を生化学的観点から説明できる。	◎		
	関 公衆衛生学	保健衛生の歴史の変遷、疫学の発展とその成果、現在の科学・医療技術や保健医療福祉制度の理解を通じて、健康を巨視的に捉える方法と、健康を共有する方法を幅広く学び、一般的教養と保健・医療・福祉関連の職種に就く上で求められる基礎知識の習得を目指します。	①疫学の専門用語を理解し、疫学に基づいて社会現象を正しく理解することができる。 ②環境が人々の健康に及ぼす影響を理解する。 ③社会の諸制度について、その成立過程や今後の課題も含めて理解する。 ④公衆衛生の観点を持ち、積極的に社会に参画して、病気の予防や健康増進に貢献できる人物になるための素養を身につける。	◎	○	○
	関 生理学	医療や福祉を学ぶ上での基礎となる「ヒトの生理機能」を学びます。 心理に対する生理、病理に対する生理を意識し、心と体のつながりや、病気と健康についての理解を深めます。	①生理的機能についての知識をもとに、多様な生命現象や実験結果を理解し、説明できる。 ②生理的機能についての知識をもとに、病的状態を推察することができる。 ③病的状態を改善するための方法を考察することができる。 ④自分自身や家族など身近な人の体調を把握し、健康維持のために配慮することができる。	◎	○	○
	関 災害概論	これからの東北復興をどうするかを考える授業とする。東北各地のボランティア活動としてフィールドワークを中心とした授業を進める。	①東北復興をどうするかを考える。		◎	○
	関 災害福祉論	一生のうち必ず何らかの災害時要援護者になることを理解し、災害前・中・後を含め主体的に問題を発見するとともに、その対応策について思考することを目的とする。	①災害など緊急時における災害弱者や福祉施設、避難所などにおける課題と在り方について提言できるようにする。 ②災害の前・中・後における夫々の役割について理解を深め、各自の生活場面に活かすことができるようにする。 ③今後の災害に備えるための想像力と思考力を養い応用することができるようにする。		◎	○

科目コード	科目分類・科目名称 基：専門基礎科目 L：専門基礎L群 A・B・C：専門基礎科目A～C 関：関連科目	授業の概要	達成目標	(1) 医療専門職としての 使命を全うできる 資質・能力	(2) 職業人としての 資質・能力	(3) 生涯学習への 意欲
	関 財務管理論	財務分析の理論を学び、注目企業の「決算短信」や「有価証券報告書」などの公開情報を用いたケーススタディを通して企業業績を評価する能力を養成する。	①財務諸表の種類（財務3表）とその基本構造を理解している。 ②R O E・R O A分析を中心に主な財務分析の手法とバランス・スコアカード（B S C）の基礎を理解している。 ③企業の公開情報を基に財務分析などを行い経営の実体を把握することができる。 ④財務実績を左右する、経営戦略やビジネスモデルの基礎を理解している。	○	◎	
	関 データベース論	データベース管理システム（DBMS）を含め、データベース（DB）への理解を深め、データ抽出技法の基本を修得する。	①リレーショナルデータベースについて、理論的な基礎の理解、修得する。 ②基本情報処理技術者試験、医療情報技術師能力検定試験に合格する。	○	○	